

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館制度・経営論						
担当教員	中村 恵信					科目ナンバー	Q22420
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館における政策と経営の考え方及びあり方の理解						
授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、行政制度及び具体的な行政サービスを遂行するための図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源としての人材・経費・資料等の活用計画について説明を行い、図書館の組織、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理・運営形態及び専門職員の在り方等について解説する。						
到達目標	(1) 図書館に関する社会科学的事項を学ぶことにより、公共図書館等の図書館の経営の理念とその現状を理解し説明できる。【知識・理解】 (2) 行政制度及び具体的な行政サービスに関する知識を習得し説明できる。【知識・理解】 (3) 図書館の本質を具体的に見定め、利用者の立場を含めた総合的な視点を習得し説明でき実践できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 図書館をめぐる法体系 第2回 図書館法逐条解説(1) 総則 第3回 図書館法逐条解説(2) 公立図書館および私立図書館 第4回 地方自治体の図書館関連条例など 第5回 他館種の図書館に関する法律など 第6回 図書館サービス関連法規 第7回 図書館政策(国、地方自治体) 第8回 公共機関・施設の経営方法と図書館経営 第9回 図書館の組織・職員(1) 教育委員会・組織構成・図書館長の役割・人事管理 第10回 図書館の組織・職員(2) 図書館協議会・図書館を支える住民団体・図書館ボランティア 第11回 図書館の施設・設備 第12回 図書館のサービス計画と予算の確保 第13回 図書館業務/サービスの調査と評価 第14回 図書館の管理形態の多様化 第15回 展望及びまとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習: 授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んできてください。(学習時間2時間) 授業後学習: 授業中に説明した内容について図書館等(本学図書館、公共図書館等)で確認してください。(学習時間2時間)						
授業方法	講義:教科書の担当部分を読んでもらい、解説および意見を発表してもらう。						
評価基準と評価方法	期末試験(60%)、レポート(40%) 期末試験: 図書館制度と図書館経営の理論の理解度を評価する。到達目標(1)(2)(3)の到達度を確認。 レポート: 今後の図書館経営の主体について考えてもらい、今後の日本の図書館の在り方について説明してもらい説明力と文章力を評価する。 最終講義で全体に対するフィードバックを行う。						
履修上の注意	教科書の内容を中心に授業を進めます。						
教科書	『図書館制度・経営論 第2版』(ベーシック司書講座:図書館の基礎と展望:5)手嶋孝典編著 学文社 ISBN 978-4-7620-2701-7						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	学校教育概論						
担当教員	太田 知実					科目ナンバ-	Q22640
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	学校教育や児童生徒の心身の発達などの基本的事項についての理解を深める。						
授業の概要	本講義では、学校教育や児童生徒の心身の発達に関する基本的事柄を理解することを通じて、児童生徒の学びはどのようなもの(であるべき)か、それをいかにして支えようのかを考えることを目指す。その際とくに、学生が次のことをできるように意識する。一つには、教育学の知見を、学生自身の成長過程を振り返るために用い、自身の発達を客観的に把握すること、二つには、自分とはタイプ異なる子どもにも視野を広げること、三つ目に、学ぶ立場(児童・生徒)ではなく、学びを支える立場(学校司書・保護者・教員)で学校・教育のあり方を考えることができるようになることを目指す。						
到達目標	(1) 現在の学校教育の仕組みや子どもの発達・学習過程に関する基本的な考え方を説明することができる。【知識・理解】 (2) 子ども・保護者・地域住民・教員など、多様な立場に立ち、学校・教育に対する考えを述べるができる。【汎用的技能】 (3) 学び手ではなく“教える”立場として、学校・教育のあり方を考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 学校教育の意義と目標 (1) 学校教育をめぐる思想の展開 第2回 学校教育の意義と目標 (2) 教育の基本法制(憲法・教育基本法) 第3回 教育行政と学校教育 (1) 教育委員会制度の現実 第4回 教育行政と学校教育 (2) 教育委員会制度の理想 第5回 教育課程の意義と学習指導要領 (1) 学習指導要領の変遷 第6回 教育課程の意義と学習指導要領 (2) 学習観の転換(アクティブ・ラーニングなど) 第7回 学校教育と教科書 (1) 教科書の作られ方・選ばれ方 第8回 学校教育と教科書 (2) 教材・教具論 第9回 特別の支援を必要とする児童生徒に対する理解 (1) 発達障害の基本的枠組・類型 第10回 特別の支援を必要とする児童生徒に対する理解 (2) 特別支援教育をめぐる課題 第11回 児童生徒の心身の発達及び学習の過程 (1) 幼児期から児童期にかけて 第12回 児童生徒の心身の発達及び学習の過程 (2) 児童期から思春期・青年期にかけて 第13回 学校教育に関する現代的課題 (1) 社会に開かれた教育課程 第14回 学校教育に関する現代的課題 (2) 学校マネジメントの発想と展開 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習: 事前に指定した文献を読解し、感想・意見をノートにまとめておく。(学習時間: 2時間) 授業後学習: 授業で配布した小レポート課題について、新聞や文献で追加調査し、講義内容の理解を深めたうえで、自分なりの考え・意見を記述する。(学習時間: 2時間)						
授業方法	VTRや資料を用いながら、ペアワークやグループワークを行う。 そこで出てきた意見を踏まえて、実際の仕組みや成り立ち、その意義・課題等について説明を行う。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物60% 期末試験またはレポート40% 授業内での提出物: 各回提出の小レポートは、講義で説明した事例などについて、自分なりの分析や考えを的確に述べているか、などの観点から評価する。(到達目標(2)(3)) 期末試験またはレポート: 授業で扱った学校教育・児童生徒の発達についての理解度に加え、それらの知識を用いて学校教育について自ら主体的に考えようとしているかどうかを評価する。(到達目標(1)(2)(3))						
履修上の注意	1. 小レポートは、各回の出席者のみ配布する。 (その他資料は欠席者にも後日配布可能。ただし、自ら申し出てください。) 2. 授業回数の3分の1以上欠席した人は原則単位認定を行わない。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	司書課程科目						
科目名	学校図書館概論						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバ-	Q21610
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	学校図書館の理念、教育的意義やその活動、学校司書の職務などの学校図書館に関する基本的ことからについて学ぶ。						
授業の概要	学校司書の課程の入門的、基礎的科目である。学校図書館についてその意義、機能、活動等について総合的に学習することを通じて基礎的な事項について解説する。また、学校教育との関連や教育法制、教育行政との関連について概要を解説する。そのようなことを踏まえて、教諭や学校図書館で働く学校司書、司書教諭等の協働について事例紹介を通じて解説するとともに、これからの学校図書館が担うべきことを考える手がかりとなるように講義を行う。については、講義内容に関連して受講生の学校図書館の利用体験や意見などの発言を求める。						
到達目標	以下の諸点について理解し、簡潔に説明できるようになる。[知識・理解] 1 学校図書館とはどのようなものであり、どのような理念で設置されているか。 2 現代の学校図書館がどのようにして、展開、発展してきたか。 3 学校教育の中で学校図書館がどのような役割を果たしているか。 4 学校図書館が具体的にどのようなサービスを行っているか。 5 学校司書としてどのような役割を果たすべきか。						
授業計画	1) ガイダンス、学校図書館とは、学校図書館の理念 2) 学校における学校図書館の意義、役割 3) 法制度と学校図書館 4) 教育行政と学校図書館 5) 日本における学校図書館の歴史 6) 学校図書館の経営 7) 学校図書館のスタッフ(学校司書、司書教諭、ボランティア) 8) 学校図書館の施設・設備 9) 学校図書館におけるメディアの選択と収集、保存、提供 10) 学校図書館の様々な活動 11) 学校司書の職務と教職員との協働、研修 12) 学校図書館、図書館の相互協力とネットワーク 13) 学校図書館と図書館の自由 14) 学校図書館の現状、課題と展望 15) まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	学校司書課程で学習する内容の基礎となる科目ため、事前学習より、事後学習(復習)をしっかりと行うように心がけること。 事前学習として、あらかじめ配布する教材、資料を読み、要点を把握すること(120分程度) 事後学習として、授業で学んだ内容をプリント、ノートをベースに復習すること(120分程度)						
授業方法	講義形式、受講生のみなさんの小、中、高の学校図書館体験をミニレポートとして求めます。また、それをもとに授業計画のテーマに即してグループディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業への参画態度とミニレポート(20点)、定期試験(80点)によって評価します。 ミニレポートについては授業内で返却、コメントします。定期試験については、解説と全体的な講評を行う。						
履修上の注意	学校司書養成課程を受講する学生は、この科目から履修を始めることが望ましい。 授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、欠席はしないように心がけること。						
教科書	教科書は使用しない。教材はプリントを配布します。						
参考書	全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携』改訂版 悠光堂、2017年 金沢みどり著『学校司書の役割と活動 ー学校図書館活性化の視点から』学文社、2017年 坂田仰、河内祥子編著『学校図書館への招待』 八千代出版、2017年						

科目区分	司書課程科目						
科目名	学校図書館サービス論						
担当教員	村上 幸二					科目ナンバ-	Q21620
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	学校図書館サービスの実施に向けた基礎的実践力の習得						
授業の概要	学校図書館における児童生徒及び教職員へのサービスの考え方や各種サービス活動についての理解を図ることを目的とする。						
到達目標	(1)学校図書館サービスの特徴や方法の要点をあげることができる。 (2)学校図書館サービスの基本的な計画と実施について説明できる。 (3)学校教育との関連で学校図書館サービスを考えることができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス、学校図書館サービスの考え方と構造 第2回 学校図書館サービスの環境整備 第3回 学校図書館サービスの運営 第4回 学校図書館の利用ガイダンス 第5回 学校図書館の資料・情報提供 第6回 児童生徒への読書支援（読書推進行事、読書推進活動） 第7回 児童生徒への学習支援①（教科等の指導に関する支援） 第8回 児童生徒への学習支援②（特別活動の指導に関する支援） 第9回 児童生徒への学習支援③（探究的な学習への支援） 第10回 特別の支援を必要とする児童生徒に対する支援 第11回 教職員への支援①（学校司書と司書教諭の協働） 第12回 教職員への支援②（学校司書の教育活動） 第13回 学校図書館の広報・渉外活動 第14回 公共図書館との連携、これからの学校図書館サービス 第15回 まとめと振り返り、試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：前時の授業で指示した内容の予習など（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で学習した内容の確認など（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：授業では各回のテーマや授業の中で取り上げたトピックスについてディスカッションする時間を設ける。						
評価基準と評価方法	平常点 20%：授業での発表・発言・意欲・関心を総合的に評価する。 課題 30%：理解の到達度と創造的な取り組みを重視する。 試験 50%：学校図書館サービスの基礎的知識と基本的な実践力を評価する。 課題は評価をした後に各自にフィードバックする。						
履修上の注意	1. 授業で学習した内容について知識だけでなく、実際に図書館等に行って確認することが望ましい。（具体的な方法については授業で指示する。） 2. 日頃から絵本や児童書に触れる機会をできるだけ多く持つこと。 3. 授業回数の3分の1以上欠席した場合は定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	『学校図書館サービス論』小川三和子著，青弓社，ISBN：978-4-7872-0066-2						
参考書	『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携：理論と実践』悠光堂，ISBN：978-4-906873-50-0						

科目区分	司書課程科目						
科目名	学校図書館情報サービス論						
担当教員	長谷川 雄彦					科目ナンバ-	Q22630
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	学校図書館における情報サービスの種類や各種情報源の特性の理解を図る。また、児童生徒に資料・情報を適切に提供できる能力の育成を図る。						
授業の概要	学校図書館における情報サービスの意義を概説するとともに、情報サービスの種類や各種情報源の特性について述べていく。 各種サービスについて具体的な実践例を提示したり、必要に応じて演習を行い、情報サービスの実際を理解するとともに、児童生徒に資料・情報を適切に提供できる能力を育成する。						
到達目標	学校図書館における情報サービスの種類や各種情報源の特性の理解する。また、学校図書館にある資料・情報を使って、児童生徒に適切な資料・情報を提供できる能力を習得する。						
授業計画	第1回 学校図書館における情報サービスの意義 第2回 情報サービスの理論と実際 (1) : 種類とプロセス 第3回 情報サービスの理論と実際 (2) : レファレンスインタビュー 第4回 情報サービスの理論と実際 (3) : レファレンステクニック 第5回 情報サービスの理論と実際 (4) : 情報検索 第6回 情報サービスの理論と実際 (5) : 検索語と検索式 第7回 レファレンスコレクションの整備 (1) : 参考資料 第8回 レファレンスコレクションの整備 (2) : 地域資料、ファイル資料、二次資料 第9回 レファレンスコレクションの整備 (3) : パスファインダー、リンク集 第10回 各種情報源の比較と評価 第11回 情報メディアの選択 第12回 インターネットの教育利用 第13回 その他のメディアの教育利用 第14回 図書館利用者教育と情報リテラシー 第15回 学校図書館と知的財産権 第16回 期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	毎回、復習テストもしくは課題・レポートを行うので、しっかり復習をしておくこと。(90分) 普段から図書館(大学図書館や公共図書館でよい)を利用し、図書館の資料やサービスについて理解するよう努めること。(30分)						
授業方法	講義形式を中心とするが、必要に応じて演習を取り入れながら行う。 適宜、具体的なサービス事例を紹介しながら進める。 毎回、前回授業の復習テストまたは課題・レポートを行う。						
評価基準と評価方法	毎授業の復習テスト、課題・レポートなど(40%)、および期末試験(60%)で評価する						
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席を以て評価の対象としますが、できるだけ欠席しないようにすること。 ※質問は授業の前後またはメールで受け付けます。						
教科書	なし(レジュメにより授業を行います)						
参考書	参考書は授業時に適宜、指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	学習指導と学校図書館						
担当教員	村上 幸二					科目ナンバ-	Q22650
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	学習指導における学校図書館メディアの活用						
授業の概要	教育課程の展開に寄与する学校図書館の機能を踏まえ、学校図書館を活用した学習指導とその支援に必要な学校図書館メディア活用についての実践的な理解を目指す。						
到達目標	(1)学校図書館を活用した学習指導とその支援について理解できる。 (2)授業づくりと学校図書館の活用法について考えることができる。 (3)学校図書館メディア活用能力育成の要点をあげることができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス、教育課程と学校図書館 第2回 目録の機能を活用した利用指導 第3回 分類の機能を活用した利用指導 第4回 件名の機能を活用した利用指導 第5回 参考図書の利用とその指導 第6回 利用指導からメディア活用能力の育成へ 第7回 学校図書館メディア活用能力育成の方法 第8回 教師の授業づくりとその支援 第9回 探究的な学習と学校図書館 第10回 情報活用能力の育成と学校図書館 第11回 学校図書館を活用した授業①(基礎編) 第12回 学校図書館を活用した授業②(応用編) 第13回 学校図書館を活用した授業③(実践編) 第14回 学習指導における情報サービス 第15回 まとめと振り返り、試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：前時の授業で指示した内容の予習など(学習時間：2時間) 授業後学習：授業で学習した内容の確認など(学習時間：2時間)						
授業方法	講義：授業では各回のテーマや授業の中で取り上げたトピックスについてディスカッションする時間を設ける。						
評価基準と評価方法	平常点 20%：授業での発表・発言・意欲・関心を総合的に評価する。 課題 30%：理解の到達度と積極的な取り組みを重視する。 試験 50%：学習指導における学校図書館メディア活用についての理解度を評価する。 課題は評価をした後に各自にフィードバックする。						
履修上の注意	授業で配布するプリントは次回以降の授業でも参照する時があるので、各回のプリントを保存できるものを準備しておくこと。						
教科書	教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。						
参考書	授業時に適宜指示する。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	生涯学習概論						
担当教員	戸来 知子					科目ナンバ-	Q21990
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生涯に渡って学び続けることの意義や必要性を理解し、生涯学習社会の構築に関する基礎的な知識を養う。						
授業の概要	生涯学習という概念は、学校教育に留まらず、ライフサイクルのどの段階であっても、その時々自分が必要とすることを学習するということである。このような、学びたい時にいつでも学ぶことのできる生涯学習社会を構築することが、日常的に学習の機会を得やすくするためにも重要である。授業では、幼児期から青年期、成人期、老年期の学びの特質を学習するとともに、より良好な生涯学習社会の構築のために、生涯学習の理念と意義を理解し、社会教育の施設や生涯教育に関する制度や法規についても学習する。						
到達目標	①生涯学習社会の目標と理念を理解する。(知識・理解) ②成人期の学習の特性を説明することができる(態度・志向性) ③生涯学習に関する、主な法律や法規を理解する。(知識・理解)						
授業計画	第1回 オリエンテーション。生涯学習社会の理念・目標について。 第2回 生涯学習社会の歴史的経緯について。 第3回 幼児期の学習の特質について。 第4回 学校教育の現状と生涯学習との関連性について。 第5回 成人期の学習について。〈1〉(アンドラゴジーを中心に) 第6回 成人期の学習について。〈2〉(リンデマンの生涯学習論からの考察) 第7回 老年期の学習について。 第8回 死への準備教育について。 第9回 ライフサイクル論と学習との関連性から。(不登校からの立ち直り・セカンドチャレンジとしての学び) 第10回 社会教育施設および生涯学習施設の紹介および管理と運営について。 第11回 学習者への支援のあり方と評価について。 第12回 生涯学習および社会教育に関する振興施策と推進について。 第13回 生涯学習および社会教育に関する法律および法規について。 第14回 生涯学習の成果の活用について。 第15回 まとめと復習。						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習:教科書を読んでおくこと。疑問点や理解できないところをピックアップしておく。(学習時間2時間) 授業後学習:教科書を再読し、ノートを整理する。配布した資料を読むこと。(学習時間2時間)						
授業方法	講義に加えて、毎回、担当を決めて発表と質疑応答を行う。 グループディスカッションを3回を目安に行う。 小レポート作成を行う。 DVD等映像資料を用いる。						
評価基準と評価方法	試験50% 小レポートおよび平常点50%						
履修上の注意	図書館司書、博物館学芸員の資格取得の必修科目。						
教科書	堀薫夫著、『生涯学習と生涯教育』第2版、ミネルヴァ書房。						
参考書	授業の中で、適宜紹介する。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス演習A						
担当教員	中村 恵信					科目ナンバ-	Q2247A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	インターネット情報資源の情報検索サービスの実際と演習						
授業の概要	情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス及び情報検索サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービスを通しての回答を行い、積極的なコラボレーション型情報サービスの演習を通して、総合的かつ、実践的な能力を養成する。						
到達目標	(1) インターネットを通じた情報検索サービスを行うことができる。【汎用的技能】 (2) レファレンスサービスカウンターでのコンシェルジュ（総合案内係）としての情報検索端末を操作できる。【態度・指向性、汎用的技能】 (3) インターネット情報資源によるレファレンスサービスを演習し、レファレンスサービスを行うことができる。【知識・理解、汎用的技能】						
授業計画	第1回 情報サービスの設計（レファレンスサービスの体制作りを含む） 第2回 情報サービスの方法・プロセス（レファレンスインタビューとレファレンスプロセス等） 第3回 情報検索サービスの技法と実際（論理演算、トランケーション、キーワード、シソーラス、マッピング、検索評価等） 第4回 情報資源の探し方 第5回 Webページ、Webサイトの探し方 第6回 図書情報の探し方 第7回 雑誌の探し方 第8回 雑誌記事の探し方 第9回 新聞記事の探し方 第10回 言葉・事柄・統計の探し方 第11回 歴史・日時の探し方 第12回 地理・地名・地図の探し方 第13回 人物・企業・団体の探し方 第14回 法律・判例・特許の探し方 第15回 今後の情報サービス及びまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んでください。（学習時間2時間） 授業後学習：授業中にできなかった演習問題の回答を試みてください。（学習時間2時間）						
授業方法	講義及びパソコン、インターネットによる演習問題の回答作成 講義：教科書に沿ったパワーポイントの配布資料に沿って演習問題の解説を行う。 演習：それぞれグループを作り、各グループで問題の回答者を決めてもらい、皆の前で、実際に回答をプレゼンテーションしてもらおう。そこで、皆でディスカッションを行っていく。						
評価基準と評価方法	期末試験（50%）、授業での演習課題への取り組み及び発表（50%） 期末試験：情報サービスの知識と理解の評価と実際にパソコンを使って回答できるかを評価する。到達目標の（2）（3）の到達度の確認。 演習：プレゼンテーションでの実際の回答能力、利用者への対応力を評価する。 演習課題に対して授業中に評価、解説を行う。						
履修上の注意	この演習の概説科目である「情報サービス論」を取得後でないこの科目は履修できない。教科書の内容及び演習問題を中心に授業を進めていきます。						
教科書	『情報サービス演習 改訂』（現代図書館情報学シリーズ；7） 原田智子編、樹村房、 ISBN978-4-88367-267-7						
参考書	授業中に適宜指示します。						



科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス演習A						
担当教員	中村 恵信					科目ナンバ-	Q2247A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	インターネット情報資源の情報検索サービスの実際と演習						
授業の概要	情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス及び情報検索サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービスを通しての回答を行い、積極的なコラボレーション型情報サービスの演習を通して、総合的かつ、実践的な能力を養成する。						
到達目標	(1) インターネットを通じた情報検索サービスを行うことができる。【汎用的技能】 (2) レファレンスサービスカウンターでのコンシェルジュ（総合案内係）としての情報検索端末を操作できる。【態度・指向性、汎用的技能】 (3) インターネット情報資源によるレファレンスサービスを演習し、レファレンスサービスを行うことができる。【知識・理解、汎用的技能】						
授業計画	第1回 情報サービスの設計（レファレンスサービスの体制作りを含む） 第2回 情報サービスの方法・プロセス（レファレンスインタビューとレファレンスプロセス等） 第3回 情報検索サービスの技法と実際（論理演算、トランケーション、キーワード、シソーラス、マッピング、検索評価等） 第4回 情報資源の探し方 第5回 Webページ、Webサイトの探し方 第6回 図書情報の探し方 第7回 雑誌の探し方 第8回 雑誌記事の探し方 第9回 新聞記事の探し方 第10回 言葉・事柄・統計の探し方 第11回 歴史・日時の探し方 第12回 地理・地名・地図の探し方 第13回 人物・企業・団体の探し方 第14回 法律・判例・特許の探し方 第15回 今後の情報サービス及びまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んでください。（学習時間2時間） 授業後学習：授業中にできなかった演習問題の回答を試みてください。（学習時間2時間）						
授業方法	講義及びパソコン、インターネットによる演習問題の回答作成 講義：教科書に沿ったパワーポイントの配布資料に沿って演習問題の解説を行う。 演習：それぞれグループを作り、各グループで問題の回答者を決めてもらい、皆の前で、実際に回答をプレゼンテーションしてもらおう。そこで、皆でディスカッションを行っていく。						
評価基準と評価方法	期末試験（50%）、授業での演習課題への取り組み及び発表（50%） 期末試験：情報サービスの知識と理解の評価と実際にパソコンを使って回答できるかを評価する。到達目標の（2）（3）の到達度の確認。 演習：プレゼンテーションでの実際の回答能力、利用者への対応力を評価する。 演習課題に対して授業中に評価、解説を行う。						
履修上の注意	この演習の概説科目である「情報サービス論」を取得後でないこの科目は履修できない。教科書の内容及び演習問題を中心に授業を進めていきます。						
教科書	『情報サービス演習 改訂』（現代図書館情報学シリーズ；7） 原田智子編、樹村房、 ISBN978-4-88367-267-7						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス演習B						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバ	Q2247B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	情報サービス演習Aのあとを受け、具体的なレファレンス質問の調査、回答の過程を通じて種々の図書館情報資源を用いるための基本的かつ実践的な知識、技能を養う。また、レファレンスサービス、情報検索サービスの記録の意義や評価について学ぶ。情報発信型の情報サービスについての基礎的な実践的知識を身に付ける。						
授業の概要	レファレンス質問の演習課題について各種参考図書(またはデータベース)を使用して回答を作成する演習を行う。情報サービスの評価方法、発信型情報サービスについて学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 図書館情報資源のなかで基本的かつ重要なレファレンスブックスについての知識と利用法を習得する。[知識・理解]</li> <li>2. データベース、インターネット情報資源による調査と印刷媒体の参考図書による調査の特徴・相違を簡潔に説明できる。[知識・理解]</li> <li>3. 情報サービスの評価、情報発信型サービスの手法を理解し、実際にできるようになる。[知識・理解]</li> <li>4. レファレンス質問の演習課題を通じて、レファレンス回答の提供ができるレベルになる。[汎用的技能]</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習のガイダンス 参考図書の評価法</li> <li>2. 参考図書の評価演習</li> <li>3. レファレンス質問の調査 1) ことば、文字に関する問題</li> <li>4. レファレンス質問の調査 2) 人名、人物に関する問題</li> <li>5. レファレンス質問の調査 3) 歴史、日時に関する問題</li> <li>6. レファレンス質問の調査 4) 図書、雑誌の書誌事項、所蔵に関する問題</li> <li>7. レファレンス質問の調査 5) 新聞記事に関する問題</li> <li>8. レファレンス質問の調査 6) 雑誌記事に関する問題</li> <li>9. レファレンス質問の調査 7) 法令、統計に関する問題</li> <li>10. レファレンス質問の調査 8) 探索質問としての書誌作成</li> <li>11. レファレンス質問の調査 9) 書誌作成の演習</li> <li>12. 情報サービスの記録と評価 -レファレンスコレクションの評価、情報検索サービス・レファレンスサービスの評価</li> <li>13. 発信型情報サービス</li> <li>14. パスファンダーの作成、リサーチナビ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>前期の「情報サービス演習A」を引き継いで、レファレンス質問の調査、回答の演習を行う。また、クラスでの発表や受講生の演習への参画度合によって、演習の進捗が変更されます。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>受講にあたっての事前学習としては、情報サービス論で学習したレファレンスサービスやさまざまな情報サービスに関する内容を復習しておくこと。</p> <p>演習にあたっては、毎回、学習内容に係る演習問題の宿題が課されるので、図書館で調査をし課題を行うこと。(120分程度)</p>						
授業方法	最初の2回を除きほぼ毎回課題が課せられる。その課題の調査結果を発表し、受講学生、担当教員で検討をする演習形式で進めていく。						
評価基準と評価方法	授業での課題の調査、発表等の授業への参画度(20%)と課題レポート(80%)によって評価する。レファレンス質問の演習問題については随時授業時にコメントする。課題レポートについては、要点、採点目安を第15講目に解説し、全体に対して講評する。						
履修上の注意	レファレンス質問の調査課題の回答のため、毎回100円程度の図書館等でのコピー代が必要となるので心づもりしておくこと。						
教科書	原田智子編『情報サービス演習』改訂版 樹村房、2016年刊 ISBN978-4-88367-267-7 (情報サービス演習Aと同じ教科書を引き続き使用します)						
参考書	課題、回答例等は適宜プリントを配布します。 長澤雅男、石黒祐子共著「レファレンスブック 選び方・使い方」 日本図書館協会、2013						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス演習B						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバ	Q2247B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	情報サービス演習Aのあとを受け、具体的なレファレンス質問の調査、回答の過程を通じて種々の図書館情報資源を用いるための基本的かつ実践的な知識、技能を養う。また、レファレンスサービス、情報検索サービスの記録の意義や評価について学ぶ。情報発信型の情報サービスについての基礎的な実践的知識を身に付ける。						
授業の概要	レファレンス質問の演習課題について各種参考図書(またはデータベース)を使用して回答を作成する演習を行う。情報サービスの評価方法、発信型情報サービスについて学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 図書館情報資源のなかで基本的かつ重要なレファレンスブックスについての知識と利用法を習得する。[知識・理解]</li> <li>2. データベース、インターネット情報資源による調査と印刷媒体の参考図書による調査の特徴・相違を簡潔に説明できる。[知識・理解]</li> <li>3. 情報サービスの評価、情報発信型サービスの手法を理解し、実際にできるようになる。[知識・理解]</li> <li>4. レファレンス質問の演習課題を通じて、レファレンス回答の提供ができるレベルになる。[汎用的技能]</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習のガイダンス 参考図書の評価法</li> <li>2. 参考図書の評価演習</li> <li>3. レファレンス質問の調査 1) ことば、文字に関する問題</li> <li>4. レファレンス質問の調査 2) 人名、人物に関する問題</li> <li>5. レファレンス質問の調査 3) 歴史、日時に関する問題</li> <li>6. レファレンス質問の調査 4) 図書、雑誌の書誌事項、所蔵に関する問題</li> <li>7. レファレンス質問の調査 5) 新聞記事に関する問題</li> <li>8. レファレンス質問の調査 6) 雑誌記事に関する問題</li> <li>9. レファレンス質問の調査 7) 法令、統計に関する問題</li> <li>10. レファレンス質問の調査 8) 探索質問としての書誌作成</li> <li>11. レファレンス質問の調査 9) 書誌作成の演習</li> <li>12. 情報サービスの記録と評価 -レファレンスコレクションの評価、情報検索サービス・レファレンスサービスの評価</li> <li>13. 発信型情報サービス</li> <li>14. パスファンダーの作成、リサーチナビ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>前期の「情報サービス演習A」を引き継いで、レファレンス質問の調査、回答の演習を行う。また、クラスでの発表や受講生の演習への参画度合によって、演習の進捗が変更されます。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>受講にあたっての事前学習としては、情報サービス論で学習したレファレンスサービスやさまざまな情報サービスに関する内容を復習しておくこと。</p> <p>演習にあたっては、毎回、学習内容に係る演習問題の宿題が課されるので、図書館で調査をし課題を行うこと。(120分程度)</p>						
授業方法	最初の2回を除きほぼ毎回課題が課せられる。その課題の調査結果を発表し、受講学生、担当教員で検討をする演習形式で進めていく。						
評価基準と評価方法	授業での課題の調査、発表等の授業への参画度(20%)と課題レポート(80%)によって評価する。レファレンス質問の演習問題については随時授業時にコメントする。課題レポートについては、要点、採点目安を第15講目に解説し、全体に対して講評する。						
履修上の注意	レファレンス質問の調査課題の回答のため、毎回100円程度の図書館等でのコピー代が必要となるので心づもりしておくこと。						
教科書	原田智子編『情報サービス演習』改訂版 樹村房、2016年刊 ISBN978-4-88367-267-7 (情報サービス演習Aと同じ教科書を引き続き使用します)						
参考書	課題、回答例等は適宜プリントを配布します。 長澤雅男、石黒祐子共著「レファレンスブック 選び方・使い方」 日本図書館協会、2013						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス論						
担当教員	中村 恵信					科目ナンバ-	Q21460
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館における各種情報サービスの総合的な概説						
授業の概要	情報サービスを行ううえでのレファレンスライブラリアンとして必要かつ基本的なレファレンスサービスと情報検索サービスに関わるサービス提供方法の融合化を目指し、従来の参考図書及び新しい情報源を理解し、あらゆる質問に総合的かつ、実践的に対応できる能力を育成する。又、各種新しい情報サービスの事例紹介を行い、情報サービス演習（レファレンスサービス演習及び情報検索サービス演習）の概説としての説明も行う。						
到達目標	(1) 図書館における情報サービスの意義を理解し、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法を実践できる。【知識・理解、汎用的技能】 (2) 参考図書（レファレンスブック）・各種データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等（パスファインダー・機関リポジトリ等）の新しいサービス等の実際を学ぶことで図書館における情報サービスを実践できる。【態度・指向性、汎用的技能】						
授業計画	第1回 インターネット時代における情報社会と図書館の情報サービス 第2回 図書館における情報サービスの意義と種類(1)（レファレンスサービス、情報検索サービス等） 第3回 図書館における情報サービスの意義と種類(2)（レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス、読書相談、利用案内等） 第4回 レファレンスサービスの理論(1)（利用者の情報行動、レファレンスサービスプロセス等） 第5回 レファレンスサービスの理論(2)（事例の活用、組織と担当者、サービスの評価等） 第6回 レファレンスサービスの実際と方法(1)（レファレンスサービスの体制づくり等） 第7回 レファレンスサービスの実際と方法(2)（レファレンスサービスの実際、インタビューの方法、普及、現状と問題点等） 第8回 情報検索サービスの理論（利用者の情報行動、情報検索サービスプロセス、事例の活用、組織と担当者、サービスの評価等） 第9回 情報検索サービスの実際と方法（情報検索サービスの実際、インタビューの方法、普及、現状と問題点等） 第10回 各種情報源の解説と評価（参考図書、ネットワーク情報資源等を含む） 第11回 新しい情報源の特質と利用方法（電子ブック、電子ジャーナル、データベース、オープンソース等） 第12回 各種情報源の組織化（二次資料の作成及び参考文献の作成、情報発信を含む） 第13回 発信型情報サービス（パスファインダー）の意義及び実際と方法 第14回 発信型情報サービス（機関リポジトリ・オープンソース）の意義及び実際と方法 第15回 図書館利用教育の意義及び実際と方法（情報リテラシーの育成を含む）及びまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画や事前に配布した資料の該当する箇所を読んでください。（学習時間2時間） 授業後学習：授業中に説明した内容について図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。（学習時間2時間）						
授業方法	講義：配布資料の該当箇所を各人に読んでもらい、そこで、不明な箇所を述べてもらい、教員がその不明で理解できない部分を中心に説明をしていく。常に、教員が問いかけを行い、それに答えてもらう。						
評価基準と評価方法	期末試験（60%）、レポート（40%） 期末試験：情報サービスの意義の理解度、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法についての理解度を評価する。到達目標（1）および（2）に関する到達度の確認。 レポート：情報サービスの社会的役割の理解度、文章の論理的明確さについて評価する。 レポートは評価後、授業中に解説を行う。						
履修上の注意	配布資料の内容を中心に授業を進めます。 この「情報サービス論」を取得後でないと「情報サービス演習」は履修できない。						
教科書	使用せず、資料を配布する。						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織演習A						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバ-	Q2250A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	情報資源組織論で学習した内容を踏まえて、演習問題を通じて、主題分類法(この科目では「日本十進分類法」を中心に行う)の実際について、その技術を習得する。						
授業の概要	主題分類法の考え方とその技術を修得するとともに、日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本十進分類法 第10版(NDC9)』の構造および適用法について、授業時の練習問題、課題の演習問題を通じて理解を深めることを目的とする。						
到達目標	1. 日本の標準的分類法である「日本十進分類法」の体系・しくみを説明できる。[知識・理解] 2. 「日本十進分類法」によって、基本的な分類記号が付与できるようになる。[汎用的技能] 3. 件名についての基礎的知識を習得する。[知識・理解]						
授業計画	1. NDC9の概略と構成 本表、補助表、相関索引 2. 人文科学(1): 哲学・宗教(1類) 3. 人文科学(2): 歴史(2類) 4. 人文科学(3): 伝記・地理(2類) 5. 補助表(1): (形式区分、地理区分) 6. 人文科学(4): 芸術(7類) 7. 人文科学(4): 言語(8類)・文学(9類) 8. 補助表(2): (言語区分、言語共通区分、文学共通区分) 9. 社会科学(1): 社会科学(3類) 10. 社会科学(2): 産業(6類) 11. 自然科学(4類)・技術(5類) 12. 総記(0類) 13. 分類規程 14. 日本件名標目表 15. 主題目録法に関するまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習: 受講にあたっての事前学習としては、情報資源組織論で学習した分類法に関する内容を復習しておくこと。また、各回で扱う分類項目について教科書や配布資料を読むこと(120分程度) 事後学習: 毎回、学習内容に係る演習問題が課される。また、その都度、学習範囲の内容を覚えるように努めること。(120分程度)						
授業方法	演習形式。はじめの数回を除いて、学習した内容について時間内および宿題の形で演習問題を課す。当該時間内またはその翌週に合わせと解説を行う形で演習を進める。 演習問題の解答については、受講生から提出された解答例を示し、正誤、誤答である理由等を受講者全員で検討しながら進める。						
評価基準と評価方法	定期試験(80%)と演習課題などの授業への取り組み(20%)により総合的に評価する。 演習課題は翌週の授業時に解答と受講者の陥りやすい誤答例を踏まえ解説する。 定期試験については、解答、解説を全体に対して講評する。						
履修上の注意	受講にあたっては、この演習の概説科目である「情報資源組織論」を修得済みであること。 毎回の演習問題の準備、実施と授業への出席は必須です。 授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、12回以上の出席がないと単位取得は難しいと思って受講すること。						
教科書	志保田務、高鷲忠美「情報資源組織法」第2版 第一法規, 2016年 ISBN 978-4-474-05430-1 なお、この教科書は後期の情報資源組織演習Bにも引き続き使用できます。						
参考書	演習において適宜、指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織演習A						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバ-	Q2250A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	情報資源組織論で学習した内容を踏まえて、演習問題を通じて、主題分類法(この科目では「日本十進分類法」を中心に行う)の実際について、その技術を習得する。						
授業の概要	主題分類法の考え方とその技術を修得するとともに、日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本十進分類法 第10版(NDC9)』の構造および適用法について、授業時の練習問題、課題の演習問題を通じて理解を深めることを目的とする。						
到達目標	1. 日本の標準的分類法である「日本十進分類法」の体系・しくみを説明できる。[知識・理解] 2. 「日本十進分類法」によって、基本的な分類記号が付与できるようになる。[汎用的技能] 3. 件名についての基礎的知識を習得する。[知識・理解]						
授業計画	1. NDC9の概略と構成 本表、補助表、相関索引 2. 人文科学(1): 哲学・宗教 (1類) 3. 人文科学(2): 歴史 (2類) 4. 人文科学(3): 伝記・地理 (2類) 5. 補助表(1): (形式区分、地理区分) 6. 人文科学(4): 芸術 (7類) 7. 人文科学(4): 言語 (8類)・文学 (9類) 8. 補助表(2): (言語区分、言語共通区分、文学共通区分) 9. 社会科学(1): 社会科学 (3類) 10. 社会科学(2): 産業 (6類) 11. 自然科学 (4類)・技術 (5類) 12. 総記 (0類) 13. 分類規程 14. 日本件名標目表 15. 主題目録法に関するまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習: 受講にあたっての事前学習としては、情報資源組織論で学習した分類法に関する内容を復習しておくこと。また、各回で扱う分類項目について教科書や配布資料を読むこと(120分程度) 事後学習: 毎回、学習内容に係る演習問題が課される。また、その都度、学習範囲の内容を覚えるように努めること。(120分程度)						
授業方法	演習形式。はじめの数回を除いて、学習した内容について時間内および宿題の形で演習問題を課す。当該時間内またはその翌週に合わせと解説を行う形で演習を進める。 演習問題の解答については、受講生から提出された解答例を示し、正誤、誤答である理由等を受講者全員で検討しながら進める。						
評価基準と評価方法	定期試験(80%)と演習課題などの授業への取り組み(20%)により総合的に評価する。 演習課題は翌週の授業時に解答と受講者の陥りやすい誤答例を踏まえ解説する。 定期試験については、解答、解説を全体に対して講評する。						
履修上の注意	受講にあたっては、この演習の概説科目である「情報資源組織論」を修得済みであること。 毎回の演習問題の準備、実施と授業への出席は必須です。 授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、12回以上の出席がないと単位取得は難しいと思って受講すること。						
教科書	志保田務、高鷲忠美「情報資源組織法」第2版 第一法規, 2016年 ISBN 978-4-474-05430-1 なお、この教科書は後期の情報資源組織演習Bにも引き続き使用できます。						
参考書	演習において適宜、指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織演習B						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバ-	Q2250B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	情報資源組織論で学習した内容を踏まえて、演習問題を通じて、主題目録法(この科目では「日本目録規則 1987年版改訂3版」を中心に行う)の実際について、その技術を習得する。						
授業の概要	日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本目録規則 1987年版改訂3版(NCR1987rev.)』の構造および適用法について、演習を通じて理解することを目的とする。 そのため、資料組織概説で学習したことの復習から始めて、『日本目録規則 1987年版改訂3版(NCR1987rev.)』に基づき記述エリアごとに詳説しつつ、カード目録の作成演習を行う。後半は、国立情報学研究所のNAVSIS-CATの目録データ構造を学び、『目録情報の基準』等に基づきコンピュータ目録の作成演習を行う。 また、新しい目録規則『日本目録規則 2018年版』についても併せて解説する。						
到達目標	1. 『日本目録規則 1987年版改訂版』の仕組みや用語が理解できる。[知識・理解] 2. 『日本目録規則 1987年版改訂版』の定める規則に準拠して目録データを作成できるようになる。[汎用的技能] 3. 国立情報学研究所のNAVSIS-CATの目録データ構造、国立国会図書館のJAPAN/MARCのデータ構造のあらましを理解できる。[知識・理解]						
授業計画	1. 『日本目録規則 1987年版改訂3版』の概略と構成 2. 書誌階層、記述の精粗、区切り記号法、記述に関する総則 3. タイトルと責任表示の記述演習 (1) タイトル 4. タイトルと責任表示の記述演習 (2) 責任表示 5. 版に関する事項の記述演習 6. 出版に関する事項の記述演習 7. 形態に関する事項の記述演習 8. 注記の記述演習 9. 標準番号、入手条件の記述演習 10. 継続資料、その他情報資源の目録記述の特徴 11. JAPAN/MARCのデータ構造 NACSIS/CATのデータ構造 12. 目録演習 (1) 和図書単行レベル 13. 目録演習 (2) 和図書集合レベル 14. 書誌ユーティリティ 15. これからの目録、試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	受講にあたっての事前学習としては、情報資源組織論で学習した目録法に関する内容を復習しておくこと。 演習にあたっては、毎回、学習内容に係る演習問題の宿題が課されるので、事後学習を怠らぬこと。(120分)						
授業方法	演習。 事業時間内に行う演習例題、演習課題について、受講者の解答例をいくつか提示し、正誤、誤りの理由の発見等受講者が相互に気付き、学ぶ形で進める。						
評価基準と評価方法	定期試験(90%)と授業時の演習課題への取り組み態度(10%)により総合的に評価する。 演習課題については当該時間内またはその翌週に合わせと解説を行う形で演習を進める。 演習問題の解答については、受講生から提出された解答例を示し、正誤、誤答である理由等を受講者全員で検討しながら進める。 定期試験については、解答例と誤り易い箇所について全体に対して講評する。						
履修上の注意	受講にあたっては、この演習の概説科目である「情報資源組織論」および「情報資源組織演習A」を履修済みであること。 授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、12回以上の出席がないと単位取得は難しいと思って受講すること。						
教科書	志保田務、高鷲忠夫「情報資源組織法」第2版 第一法規 2016年 ISBN 978-4-474-05430-1						
参考書	演習において適宜、指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織演習B						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバ-	Q2250B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	情報資源組織論で学習した内容を踏まえて、演習問題を通じて、主題目録法(この科目では「日本目録規則 1987年版改訂3版」を中心に行う)の実際について、その技術を習得する。						
授業の概要	日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本目録規則 1987年版改訂3版(NCR1987rev.)』の構造および適用法について、演習を通じて理解することを目的とする。 そのため、資料組織概説で学習したことの復習から始めて、『日本目録規則 1987年版改訂3版(NCR1987rev.)』に基づき記述エリアごとに詳説しつつ、カード目録の作成演習を行う。後半は、国立情報学研究所のNAVSIS-CATの目録データ構造を学び、『目録情報の基準』等に基づきコンピュータ目録の作成演習を行う。 また、新しい目録規則『日本目録規則 2018年版』についても併せて解説する。						
到達目標	1. 『日本目録規則 1987年版改訂版』の仕組みや用語が理解できる。[知識・理解] 2. 『日本目録規則 1987年版改訂版』の定める規則に準拠して目録データを作成できるようになる。[汎用的技能] 3. 国立情報学研究所のNAVSIS-CATの目録データ構造、国立国会図書館のJAPAN/MARCのデータ構造のあらましを理解できる。[知識・理解]						
授業計画	1. 『日本目録規則 1987年版改訂3版』の概略と構成 2. 書誌階層、記述の精粗、区切り記号法、記述に関する総則 3. タイトルと責任表示の記述演習 (1) タイトル 4. タイトルと責任表示の記述演習 (2) 責任表示 5. 版に関する事項の記述演習 6. 出版に関する事項の記述演習 7. 形態に関する事項の記述演習 8. 注記の記述演習 9. 標準番号、入手条件の記述演習 10. 継続資料、その他情報資源の目録記述の特徴 11. JAPAN/MARCのデータ構造 NACSIS/CATのデータ構造 12. 目録演習 (1) 和図書単行レベル 13. 目録演習 (2) 和図書集合レベル 14. 書誌ユーティリティ 15. これからの目録、試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	受講にあたっての事前学習としては、情報資源組織論で学習した目録法に関する内容を復習しておくこと。 演習にあたっては、毎回、学習内容に係る演習問題の宿題が課されるので、事後学習を怠らぬこと。(120分)						
授業方法	演習。 事業時間内に行う演習例題、演習課題について、受講者の解答例をいくつか提示し、正誤、誤りの理由の発見等受講者が相互に気づき、学ぶ形で進める。						
評価基準と評価方法	定期試験(90%)と授業時の演習課題への取り組み態度(10%)により総合的に評価する。 演習課題については当該時間内またはその翌週に合わせと解説を行う形で演習を進める。 演習問題の解答については、受講生から提出された解答例を示し、正誤、誤答である理由等を受講者全員で検討しながら進める。 定期試験については、解答例と誤り易い箇所について全体に対して講評する。						
履修上の注意	受講にあたっては、この演習の概説科目である「情報資源組織論」および「情報資源組織演習A」を履修済みであること。 授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、12回以上の出席がないと単位取得は難しいと思って受講すること。						
教科書	志保田務、高鷲忠夫「情報資源組織法」第2版 第一法規 2016年 ISBN 978-4-474-05430-1						
参考書	演習において適宜、指示します。						



科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織論						
担当教員	中村 恵信					科目ナンバ-	Q21490
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館情報資源の組織化の理論（書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等）の理解						
授業の概要	情報資源は人やシステムによって組織化されることで、多くの利用者がアクセスできるようになる。従来の「資料」だけでなく、特定の形にとられない電子資料やネットワーク情報資源も含めて、「どのように情報を組織化するか」について、情報資源組織化の意味や世界的状況、目録・分類の基礎的技法について解説する。						
到達目標	(1) 情報資源の組織化の意義を理解し説明ができる。【知識・理解】 (2) 情報資源を分析し、基本的な記述目録法および主題目録法について説明できる。【知識・理解】 (3) 図書分類および図書目録を作成できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 情報資源組織論とは 第2回 目録の役割 第3回 目録の種類 第4回 目録記入の構成 第5回 書誌コントロール 第6回 OPACの管理と運用 第7回 タイトルや著者からの検索 第8回 主題検索：件名目録、分類目録 第9回 書架分類（分類順配架） 第10回 目録・書誌の基準とその歴史（1）：目録規則の意義、近代目録規則の歴史 第11回 目録・書誌の基準とその歴史（2）：図書館目録に関する世界標準、20世紀後半の目録規則 第12回 ネットワーク情報資源とメタデータ（1）：デジタル情報資源の組織化 第13回 ネットワーク情報資源とメタデータ（2）：デジタル情報資源のネットワーク化とメタデータ 第14回 多様な情報資源組織 第15回 全体のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んできてください。（学習時間2時間） 授業後学習：授業中に説明した内容について図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。（学習時間2時間）						
授業方法	講義：教科書の担当部分を読んでもらい、解説をしてもらう。特に分類と目録についての各自のレポートを皆の前で発表し、ディスカッションをしてもらう。						
評価基準と評価方法	期末試験（60%）、レポート（40%） 期末試験：目録を分類の理論の理解度、日本目録規則、日本十進分類法の内容の理解度を評価する。到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 レポート：目録と分類の役割と意義についての理解度を表現してもらい、その説明力と文章力を評価する。 授業中に各自のレポートについて、学生同士で評価してもらい、最終的に担当教員が評価を行う。						
履修上の注意	教科書の内容を中心に授業を進めるので教科書は必ず購入すること。						
教科書	『情報資源組織論：よりよい情報アクセスを支える技とシステム』第2版（講座 図書館情報学；10）志保田務 編著 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-07651-2						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	児童サービス論						
担当教員	中西 美季					科目ナンバー	Q22450
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館児童サービス研究						
授業の概要	公共図書館における、乳幼児からヤングアダルトまでのサービスの現状と課題を概説する。さらに、絵本や児童文学、知識の本等の実物に幅広く触れながら、その特性をとらえた上で、図書館にできるサービスを考える。また、学校や地域との協力等についても解説する。						
到達目標	子どもを知り、資料を知り、子どもと資料の橋渡しをするノウハウを会得できる。司書資格取得の必修科目でもあるので、図書館現場に立っても困らないような知識と技術を学べる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション・デモンストレーション・児童図書館とは 第2回 児童図書館の歴史と現状・発達と学習における読書の役割 第3回 子どもと子どもの本を知る1 絵本1 読み聞かせ 第4回 子どもと子どもの本を知る2 絵本2 乳幼児サービス 第5回 子どもと子どもの本を知る3 昔話1 昔話の文法 第6回 子どもと子どもの本を知る4 昔話2 ストーリーテリング 第7回 子どもと子どもの本を知る5 児童文学 第8回 子どもと子どもの本を知る6 各種資料 第9回 選書理論、書評、紹介文、 第10回 フックトーク、ブックリスト、ディスプレイ、行事 第11回 カウンターワーク、フロアワーク、デスクワーク、本への誘い 第12回 アウトリーチ、建築、施設、設備、読書活動推進運営 第13回 ヤングアダルトサービス 第14回 学校図書館の活動、調べ学習支援 第15回 図書館の自由、児童サービスをめぐる諸問題とこれから、総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・近くの公共図書館で、児童サービスを観察、体験し、子どもの本に触れておくと理解が深まる。 ・授業の中で配布する子どもの本及び参考文献リストから可能なかぎりの本を読んでおくこと。 ・事前事後2時間程度が望ましい。						
授業方法	講義形式。ときによりディスカッションを行なう。						
評価基準と評価方法	授業態度：10% 小テスト：10% 授業内での提出物：80% 提出物には、ていねいにコメントする。						
履修上の注意	10回以上の出席を要す。						
教科書	使用せず。印刷物を配布する。						
参考書	『児童図書館サービス1』日本図書館協会児童青少年委員会編 日本図書館協会 ISBN:4-8204-1106-2						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書・図書館史						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバ-	Q22540
学期	後期 前半	曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	日本における図書の歴史、図書館の歴史を中心に学ぶ。						
授業の概要	図書館は古代から現代まで3000年以上の歴史をもつ。図書館は、その時代、その置かれた社会から影響を受けながらも人類の知を継承する存在として、社会の発展と学術・文化の発達に寄与してきた。この授業では、記録メディアの変遷と日本における図書館の歴史に焦点をあてて解説する。そのため、古代の図書館施設や諸外国の図書館、アメリカの公立図書館成立史などは、必要最小限の説明に留める。						
到達目標	1. 各種の記録メディアの発生について簡潔に説明できる。[知識・理解] 2. 図書の形態の変遷について、その形態と特徴を説明できる。[知識・理解] 3. 日本における図書館(文庫等の図書館類似施設)の歴史的な展開を代表的な例と全体的な流れのなかで把握して理解できる。[知識・理解] 4. 日本の近代図書館の歴史の概要を説明できる。[知識・理解]						
授業計画	1. 記録メディアの歴史、図書館(的)施設の発生 2. 日本における図書の歴史 -江戸末期まで 3. 日本の図書館史 中世から近世の図書館(図書館類似施設) 4. 日本の図書館史 幕末から明治へ 5. 日本の図書館史 明治、大正期の図書館 6. 戦前期の日本の公共図書館 7. 戦後日本の公共図書館史 8. 諸外国の図書館史						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業の進度は速い。初回を除いて教科書を事前学習として読んだ上で出席すること。 授業前学習として、教科書の予定の章を読むこと(60分程度) 事後学習として、毎回の学習内容を配布プリントに沿って、まとめること(60分程度)						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	課題レポート(80%)と授業中に実施する小テスト(20%) 小テストは実施後に解答例と解説を全体に対して行う。課題レポートは、要点、評価の目安を全体に対して講評する。						
履修上の注意	授業回数が少なく、進度が速いため、事前学習と出席を心がけること。						
教科書	小黒浩司編著『図書・図書館史』(JLA図書館情報学テキストシリーズ Ⅲ期-11) 日本図書館協会 2013年刊 ISBN 978-4-8204-1218-2						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館概論						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバ-	Q21410
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館(公立図書館や大学図書館など)は“どのようにして生まれたのか”をスタート地点として、図書館とはどのようなものか、図書館の機能や現代社会における役割、意義について学ぶ。						
授業の概要	図書館というシステムをその構成要素、機能、社会的意義、価値等から検討することを通じて、図書館の基礎的なことについて解説する。その上で、公立図書館の成立・展開といった歴史的側面と館種別図書館の概要と現状といった水平的側面から図書館について解説する。そのような背景を踏まえて、図書館で働く図書館職員、広い意味での図書館ネットワークについて説明するとともに、これからの図書館の変わるべき点、変わらざる点を考える手がかりとなるように講義を行う。 については、講義内容に関連して受講生の図書館体験や意見などの発言を求める。						
到達目標	以上の諸点について、簡潔に説明できるようになるとともに関連する用語を説明できるようになる。[知識・理解] 1 図書館とはどのようなものであり、どのような社会的役割を果たしているのか。 2 現代の図書館がどのようにして、生まれ、展開、発展してきたか。 3 館種別に(公立図書館、大学図書館、、、、など)図書館の利用者、ニーズ、動向はどのようなものか。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション - 図書館とは何か、司書課程で学ぶこと、図書館の現状と動向</li> <li>2 図書館の構成要素、図書館の機能</li> <li>3 図書館の業務モデル</li> <li>4 図書館の社会的意義</li> <li>5 記録、文化の伝承と図書館 - 図書館の始原と世界の図書館</li> <li>6 公立図書館の成立と展開 - イギリス、アメリカに見る</li> <li>7 わが国における公立図書館の成立と発展</li> <li>8 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(1) 公立図書館</li> <li>9 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(2) 国立国会図書館</li> <li>10 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(3) 大学図書館</li> <li>11 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(4) 学校図書館</li> <li>12 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(5) 専門図書館</li> <li>13 図書館職員 - その資質、資格制度、役割</li> <li>14 図書館関連団体、図書館学術団体と図書館の類縁機関</li> <li>15 総まとめ - 図書館を取り巻く課題と展望 と試験</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	司書課程で学習する内容の基礎となる科目ため、事前学習より、事後学習(復習)を心がけること。 事前学習として、教科書の予定の章を読むこと(60分程度) 事後学習として、毎回の学習内容を配布プリントに沿って、まとめること(180分程度)						
授業方法	講義形式、ただし随時受講生のみなさんの図書館についての印象や意見を口頭なり、ミニレポートとして求めます。						
評価基準と評価方法	授業への参画態度とミニレポート(20点)、定期試験(80点)によって評価します。 ミニレポートについては、授業時にコメントします。定期試験については、解説、全体的講評を行います。						
履修上の注意	司書養成課程を受講する学生は、この科目から履修を始めることが望ましい。(他の司書養成課程の概論科目を同時に履修しはじめることは可) 授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、できるだけ欠席しないようにすること。						
教科書	二村健著『図書館の基礎と展望』第2版 (ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 1) 学文社、2011年   SBN : 978-4-7620-2888-5						
参考書	塩見昇『図書館概論 四訂版』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ-1) 日本図書館協会、2015年 山本順一『新しい時代の図書館情報学』補訂版 有斐閣、2016年 その他は授業中に適宜、指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館基礎特論						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバ-	Q22510
学期	後期 後半	曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	司書養成課程の基礎的科目で学習する内容のなかから、基本的理念に関わるテーマを取り上げて論じる。図書館の自由をめぐる問題を扱う。						
授業の概要	「図書館の自由に関する宣言」と図書館の自由に関わる具体的な事案について、図書館の資料収集の自由、資料提供の自由、利用者のプライバシー保護、検閲の問題について検討する。過去の代表的な事案について講述し、あわせて近年の事案なども紹介して受講者で考えることにしたい。						
到達目標	1. 「図書館の自由」と知的自由の重要性を説明できる。[知識・理解]、 2. 「図書館の自由に関する宣言」で述べられている項目に関して、説明できる。[知識・理解] 3. 具体的な事案を検討することを通じて、実際に事態に直面した際に適切な判断が下せる理解力を養う。[汎用的技能]						
授業計画	1. 知る権利、知的自由と図書館 2. 「図書館の自由に関する宣言」その採択、内容 3. 図書館の資料収集に関する事案 4. 図書館の資料提供に関する事案 (1) わいせつ出版物をめぐる 5. 図書館の資料提供に関する事案 (2) プライバシー侵害や人権侵害に関わる資料をめぐる 6. 利用者の秘密を守ることにに関する事案 7. 図書館はすべての検閲に反対することに関する事案 8. 最近のさまざまな事案 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	「図書館概論」で学習した内容を自身で復習、確認しておくこと。 授業前学習：取り扱う事案の教材プリントを読むこと（60分） 事後学習：毎回の学習内容を配布プリントに沿って、まとめること（60分） 取り扱う事案については、前の週に教材を配布するので一読して、各自の意見、感想を持ったうえで授業に出席すること。						
授業方法	講義とグループワーク。 代表的な事案について、図書館の対応、報道記事、判決文、日本図書館協会図書館の自由委員会の声明等の資料を読み解きながら、経緯の理解、問題点の把握ができる形で授業を行う。 事例事案については、受講生各自が対応案をまとめ、2人がペアになり話し合う、その結果をもとに2組のペア4人で話し合うグループワーク形式を進める。						
評価基準と評価方法	授業での発言、発表等の授業への参画度(20%)と課題レポート(80%)にて評価する。 課題レポートは授業時に返却・フィードバックを行う。						
履修上の注意	「図書館概論」を修得済みであること、できれば「図書館制度経営論」、「図書館サービス概論」も修得済みで受講することが望ましい。 とりあげる事例は具体的であるが、その根底にある考え方等、扱う内容は概念的である。しっかりとした学習意欲をもって学習をしなければ、単位の習得は困難であることを自覚した上で履修すること。						
教科書	特に使用しない。プリント教材を配布する。						
参考書	適宜、授業の中で指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館サービス概論						
担当教員	長谷川 雄彦					科目ナンバ-	Q21440
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館サービスは、図書館の機能を具体化し、実践する活動であり、利用者を中心に考えて行われなければならない。このような図書館サービスについて、その意義、方法、特徴について学ぶとともにその具体的なサービスについて理解する。						
授業の概要	図書館サービスの理念と意義を概説し、資料提供サービス、情報提供サービス、利用対象者別サービスに大別してその意義や技法について解説する。あわせて、できるだけ各種サービスについて具体的な実践例を提示して、図書館サービスの実際を理解できるようにする。						
到達目標	図書館が提供している様々なサービスについて、その名称と具体的な活動内容を把握する。またそれぞれのサービスがどのような考え方に基づいて準備、実践されるのかを理解する。そして、図書館サービスというものは図書館員を介して行われるものであるということ意識する。						
授業計画	第1回 図書館サービスの考え方 (1) : 図書館サービスの意義 第2回 図書館サービスの考え方 (2) : 図書館サービスの基本的な考え方 第3回 図書館サービスの構造 : 種類と特徴 第4回 戦後日本の図書館サービスの変遷 (1) : 1945年-1970年代 第5回 戦後日本の図書館サービスの変遷 (2) : 1980年代-現在 第6回 公共図書館における資料提供システムと図書館協力 第7回 資料提供サービスと情報提供サービスの基本 第8回 資料提供サービスの実際 (1) : 閲覧・貸出 第9回 資料提供サービスの実際 (2) : 読書相談サービス・予約・リクエスト・複写サービス ほか 第10回 情報提供サービスの実際 (1) : レファレンスサービス・図書館利用教育 第11回 情報提供サービスの実際 (2) : 情報検索サービス・課題解決支援サービス 第12回 情報提供サービスの実際 (3) : 集会活動・広報活動 第13回 利用対象者別の図書館サービス (1) : 年齢別サービス 第14回 利用対象者別の図書館サービス (2) : 図書館利用に障害のある人へのサービス、団体へのサービス 第15回 図書館サービスと著作権 第16回 期末試験						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業で学ぶだけでなく、居住地や近隣の自治体の公共図書館を見に行くことを心がけ、それぞれの図書館での実際のサービスも見てほしい。(30分) 毎回復習確認テストを行うので、しっかり復習をしておくこと。(90分)						
授業方法	講義形式。適宜、具体的なサービス事例を紹介しながら進める。 毎回、授業の開始時に前回授業の理解度を確認するために復習確認テストを行う。復習確認テストは実施の次の授業時に採点したものを返却し、補足説明を行う。 授業時に出された質問に対しては、質問時に全体に向けて回答・説明する。						
評価基準と評価方法	毎授業の復習テスト、課題・レポートなど 40%、および期末試験60% で評価する						
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席を以て評価の対象としますが、できるだけ欠席しないようにすること。 ※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	なし (レジュメにより授業を行います)						
参考書	参考書は授業時に適宜、指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館サービス特論						
担当教員	中村 恵信					科目ナンバ-	Q22520
学期	後期 前半	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	図書館サービスの実際の理解						
授業の概要	図書館サービス概論の内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館サービスに関する領域の課題を選択し、講義を行う。「図書館サービス概論」で概説的に扱った図書館サービスについて、「図書館サービス特論」では焦点化した授業展開により、更に理解を深める。						
到達目標	(1) 図書館サービス概論の実際を理解できる。【知識・理解】 (2) 資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者、高齢者、多文化サービスを理解し実際に行うことができる。【態度・指向性、汎用的技能】						
授業計画	第1回 図書館サービスの変遷 第2回 直接サービス（パブリックサービス）の種類 第3回 資料提供と図書館の自由、図書館員の倫理 第4回 図書館サービス各種 第5回 利用者別サービス各種 第6回 アウトリーチ・多文化サービス・高齢者サービス 第7回 障害者サービス 第8回 展望・まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んでください。（学習時間1時間） 授業後学習：授業中に説明した内容等を図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。（学習時間1時間）						
授業方法	講義：貸し与えた教科書の担当部分を読んでもらい、それを解説および意見を発表してもらう。						
評価基準と評価方法	期末試験（60%）、レポート（40%） 期末試験：各種図書館サービスの知識と理解度を評価する。到達目標の（1）および（2）に関する到達度の確認。 レポート：各種図書館サービスの理解度を評価する。特に考察力について評価する。 最終講義でレポート課題に対するフィードバックを行う。						
履修上の注意	授業計画の内容を貸し与えた教科書を中心に授業を進めていきます。						
教科書	各自に貸し与えます。						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館施設論						
担当教員	中村 恵信					科目ナンバ-	Q22550
学期	後期 後半	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	図書館施設の実際と理解						
授業の概要	利用者のための地域計画としての図書館ネットワーク案及び建築計画としての図書館設置計画案を作成し、ベンダーのカタログを利用し実際の館内のサイン計画及び図書館家具等を考えて、カウンター、閲覧席、閲覧椅子、AVルーム等の計画が行えるようにする。						
到達目標	(1) 必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、図書館建築を理解し、説明できる。【態度・指向性、知識・理解】 (2) 場としての図書館施設を理解し、説明できる。【知識・理解】 (3) 図書館施設及び図書館用品についての構成要素を理解し、図書館計画・地域計画・建築計画できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 場としての図書館とはno 第2回 図書館システムと地域計画・建築計画・規模計画 第3回 図書館建築の構成要素 第4回 図書館の内装計画・環境計画 第5回 複合・併設館について 第6回 図書館建築の実例・図面と図学の基本 第7回 バーチャル図書館の設計と表現・評価 第8回 展望及びまとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：授業中計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んでください。(学習時間1時間) 授業後学習：授業中に説明した内容等を図書館等(本学図書館、公共図書館等)で確認してください。(学習時間1時間)						
授業方法	講義：教科書の担当部分を読んでもらい、解説および意見発表してもらおう。						
評価基準と評価方法	期末試験(60%)、レポート(40%) 期末試験：図書館建築の理解度及び建築方針の理解度を評価する。到達目標の(1)および(2)に関する到達度の確認。 レポート：図書館計画・地域計画・建築計画が実際に書けるかどうかを評価する。到達目標(3)に関する到達度の確認。 最終講義で全体に対するフィードバックを行う。						
履修上の注意	授業計画の内容を教科書を中心に授業を進めていきます。						
教科書	『図書館施設特論』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望;9) 福本徹著 学文社 ISBN978-4-7620-2199-2						
参考書	授業中に適宜指示します。						



科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館情報技術論						
担当教員	中村 恵信					科目ナンバ-	Q21430
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館における利用者サービスを行うための情報技術の実際						
授業の概要	図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、ネットワーク及びコンピュータ等の基礎、オープンシステム、図書館業務システム、電子ブック、電子ジャーナル、データベース、リンクリゾルバ、検索エンジン、ホームページによる情報発信等について解説し、必要に応じて演習を行う。						
到達目標	(1) インターネットによる情報環境の急激な変更に対応できる。【態度・指向性、汎用的技能】 (2) 電子ブック、電子ジャーナルを理解し、情報サービスができる。【知識・理解・汎用的技能】 (3) 図書館ネットワークを学び、図書館システムを構築でき、図書館サービスができる。【態度・指向性、汎用的技能】 (4) 情報発信について学び、電子図書館の管理・運営・広報ができる。【態度・指向性、汎用的技能】						
授業計画	第1回 コンピュータとネットワークの基礎 第2回 館内LANの構成、サブネットワーク、プロトコル 第3回 情報システムの管理 第4回 データベースの仕組み 第5回 図書館業務システムの仕組み 第6回 館内ネットワークの構築仕様、仕様書 第7回 図書館における情報技術活用の歴史と現状 第8回 電子資料の管理技術 第9回 電子図書館とデジタルアーカイブ 第10回 最新の情報技術と図書館 第11回 情報技術と社会 第12回 インターネットと図書館 第13回 サーチエンジンの仕組み 第14回 Web2.0とLibrary2.0 第15回 展望及びまとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：授業計画や授業中に配布するプリントの該当する箇所を読んできてください。(学習時間2時間) 授業後学習：授業中に説明した情報技術を図書館等(本学図書館、公共図書館等)で確認してください。(学習時間2時間)						
授業方法	講義と演習 講義：教科書のまとめのパワーポイントの配布資料に沿って解説・講義を行う。 演習：パソコンを使い、図書館業務に必要な情報技術を実際に操作を行い、習得してもらう。実際に習得した情報技術をプレゼンテーションをしてもらう。						
評価基準と評価方法	期末試験(60%)、レポート(40%) 期末試験：図書館情報技術についての知識および理解度を評価する。到達目標の(2)(3)(4)に関する到達度の確認。 レポート：図書館情報技術で最も重要なネットワークの運用・管理についてレポートを作成してもらい、それを本当に理解しているかを確認し、文章力も評価する。その際、考察を特に重視する。 課題に対するフィードバックの方法 評価後に授業中に解説をおこなう。						
履修上の注意	授業計画の内容を中心に授業を進めるので必ず教科書を購入すること。						
教科書	『図書館情報技術論』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 ; 2) 齋藤ひとみ・二村 健編著、学文社 ISBN978-4-7620-2192-3						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館情報資源概論						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバ-	Q21480
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館を構成する要素のひとつとしての図書館情報資源(図書館資料)について、その類型ごとに基礎的知識を習得する。また、図書館のコレクションの形成、管理、評価について、基本的な考え方や手法の基礎的知識を習得する。						
授業の概要	図書館情報資源(図書館資料)について、その類型ごとに現物資料や副教材(プリント配布)により、その特性、歴史、流通について概説する。また、図書館のコレクションの形成、管理について、選択、収集、保存についての基本的な考え方、具体的なツール、手法について説明する。						
到達目標	以上の諸点について、簡潔に説明できるようになるとともに関連する用語を説明できるようになる。[知識・理解] 1. さまざまな図書館情報資源(図書館資料)について、その類型ごとの名称、定義、特徴はどのようなものか。 2. 図書館情報資源(図書館資料)がどのような流通のしくみを持っているかを他の商品との違いと比較して理解する。 3. 図書館における図書館情報資源(図書館資料)の収集、受入、保存は一般的にどのように行われているのか。						
授業計画	1. この授業のガイダンス、図書館情報資源とは 2. 図書館情報資源の類型 —パッケージ型情報資源、ネットワーク情報資源をめぐって 3. 図書 —形態、版型、造本 4. 雑誌、新聞 5. 小冊子、地図、政府刊行物、灰色文献 6. 録音資料、映像資料 7. 電子資料、ネットワーク情報資源 8. 一次資料と二次資料 9. 出版流通のしくみ 10. コレクションの形成(1) 資料の収集・選択 選択論 選書ツール 11. コレクションの形成(2) 蔵書の評価、蔵書の更新 12. 人文・社会科学、自然科学分野の情報資源とその特徴 13. 資料の受入、登録、配列 14. 資料の管理、蔵書点検、除籍 15. 図書館情報資源(図書館資料)の変化と図書館 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	司書課程の基礎的科目のひとつひとつであるため、事前学習より、事後学習(復習)を心がけること。 授業前学習として、教科書の予定の章、項目を読むこと(60分程度) 事後学習として、毎回の学習内容を配布プリントに沿ってまとめること、また、図書館でできるだけ現物に触れるように心がけること(180分程度)						
授業方法	講義。 図書館情報資源(図書館資料)についての話題では、現物を提示または回覧する。講義に合わせて、図書の印刷のページ割り付け作成、本学図書館での逐次刊行物の具体的な類別例探し等の実習を行う。出版流通に関しては、個人での図書、雑誌の選択行動、購入方法についてのコメントシートを作成し、グループディスカッションを行うなどして理解を深める。						
評価基準と評価方法	定期試験(100%)によって評価します。 定期試験について解答例、全体講評を行う。						
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、できるだけ欠席しないように心がけること。						
教科書	伊藤民雄著『図書館情報資源概論』(ライブラリー図書館情報学 8)学文社 2012年刊 ISBN 9784762023040						
参考書	馬場俊明『図書館情報資源概論』(JLA図書館情報学テキストシリーズ Ⅲ期 7)日本図書館協会 2012年刊 宮沢厚雄『図書館情報資源概論』全訂第3版 理想社 2015年刊						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館情報資源特論						
担当教員	中村 恵信					科目ナンバー	Q22530
学期	前期 前半	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	図書館資料論、専門資料論、資料特論の統合						
授業の概要	印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する課題を選択し解説する。従来の図書館資料論、専門資料論、資料特論の統合化をねらう。						
到達目標	(1) 印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源を情報・資料・メディアととらえて図書館情報資源について理解し説明できる。【知識・理解】 (2) 報資源の生産（出版）と流通の課題を学び、図書館コレクションとして形成及び提供する理論（資料の選択・収集・評価）、方法の課題についても理解し説明できる。【汎用的技能】 (3) 主題分野における情報資源の特性についても理解し説明できる。【態度・指向性】 (4) 特に、今後のことを考えて電子、電子ブックについては現状・将来・提供方法を理解し説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 学術・専門情報の意義と種類 第2回 学術・専門情報と二次情報 第3回 学術・専門情報の生産、流通、利用 第4回 郷土・行政資料 第5回 視聴覚メディアと図書館 第6回 電子ブック、電子ジャーナルの現状・将来・課題 第7回 情報メディアを取り巻く制度と政策 第8回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んでください。（学習時間1時間） 授業後学習：授業中に説明した内容について図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。（学習時間1時間）						
授業方法	講義：配布資料の担当部分を読んでもらい、それを全員の前で解説および意見を発表してもらおう。						
評価基準と評価方法	期末試験（60%）、レポート（40%） 期末試験：配布資料の内容の理解度を評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認。 レポート：二次情報の理解度の確認と書誌の作成による、表現力の確認。 最終講義でレポートを含めた全体に対するフィードバックを行う。						
履修上の注意	毎回、講義資料を配布する。						
教科書	なし						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館実習						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバ-	Q24570
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	図書館の現場において、司書養成課程で学習したことを活用しつつ、実際の図書館業務を通して図書館について理解を深める。						
授業の概要	事前研修として、実習にあたって知っておくべき用語の復習、実習先でのマナー・心得、実習先図書館に関する調査を行う。事前に実習先図書館についての簡単な予備調査報告を作成する。 実習先図書館での実習(原則5日間 実習先によって異なる場合がある) 事後研修として、実習での体験報告および最終的に実習報告書をまとめる。 最終的に実習報告書に基づくミニ発表会を実施し、実習で得たことを実習参加者で共有できるようにしたい。						
到達目標	1. 事前の実習先図書館に関する予備調査に基づく仮説と実際の比較・検討ができる。[知識・理解、汎用的技能] 2. 司書養成課程で学習した内容に関して現場でどう活用できたかを意識的に把握できる [態度、汎用的技能] 3. 実習で体得したことを実習報告書としてまとめる。[汎用的技能]						
授業計画	事前研修 (4回程度) 1. 図書館実習のガイダンス(実習の手続き、実習の概要) 実習にあたって知っておくべき用語の復習 1 図書館組織関係 2. 実習にあたって知っておくべき用語の復習 2 図書館サービス関係 実習先図書館に関する調査方法の説明 3. 実習先でのマナー・心得 4. 実習先図書館に関する調査のまとめ 実習 5-13 実習先図書館での現地実習 (実習先によって異なる場合があるが、4日ないし5日のプログラムを想定しています) 事後研修 (3回程度) 14. 実習報告会と実習メモのまとめ 15. 実習報告書の作成 16. 実習報告書のまとめと発表会 事前研修、事後研修とも予定回数には制限されず、必要に応じて適宜指導をします。						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	司書養成課程で習得済みの内容について復習しておくこと。 実習期間のみならず、事前研修課題や実習報告書の作成に授業外で多くの時間を要するので、あらかじめ心積もりしておくこと。(事前研修課題3件、実習先図書館の事前訪問、実習報告書作成等) 事前研修課題1件あたり(180分程度)						
授業方法	実習。事前研修・事後研修として講義と演習を実施。						
評価基準と評価方法	事前研修の提出物(20%)、実習報告書(80%)によって評価します。 実習に参加するだけでは単位認定されません(実習報告書の作成、提出が作成が必須)。 事前研修の提出物、実習報告書については、実習報告集をまとめる過程において個別に指示・コメントをします。						
履修上の注意	事前の予備登録説明を受け、「履修ガイド」の履修資格制限を満たしていないと履修できません。 また、実習にあたっては実習費が必要となります。 実習は9月の中旬から10月初旬頃が目安であるので、その前後に予定を入れられないこと。 この科目は「集中」であるが、前期の後半から夏季休業中の木曜5限に事前研修を実施し、後期の前半の木曜5限に事後研修する。なお、どうしても木曜5限が確保できない学生については相談に応じます。						
教科書	使用しない。プリント教材を配布する。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館総合演習						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバ-	Q23560
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	公立図書館に関するテーマについて調査研究レポートを作成することを通じて、調査法、研究法の基礎を習得する。						
授業の概要	受講生の設定したテーマに応じて、先行研究の調査、レビューの作成、調査手法、分析といった過程を講義をまじえつつ、演習を行う。 そのため、取り扱うテーマに応じて授業計画に示した内容に濃淡が生じる。また、該当する調査、研究法が適用されないような場合は、サンプルデータなどを用いて講義形式で説明する。						
到達目標	受講生各自の問題意識に基づくテーマについて調査し、調査研究レポートを作成する。その過程において 1. 先行研究の調査やそのまとめ方の基本的なことができる。[汎用的技能] 2. 引用文献、参考文献の記述法について理解し、記述の書誌事項を理解できる。[知識・理解] 3. 調査内容に適した調査方法、分析方法を検討できる。[汎用的技能]						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本演習の進め方、各自のテーマ設定について</li> <li>2. 先行研究の調査、先行研究文献の入手</li> <li>3. 先行研究の文献リストの作成 参考文献記述法(SIST02、学問領域での記述法の相違)</li> <li>4. 先行研究の調査のまとめ</li> <li>5. 主要な先行研究の概要把握</li> <li>6. 研究レビューの作成</li> <li>7. 文献研究とフィールドワーク(現地視察、観察調査、質問紙調査)</li> <li>8. 調査手法の検討</li> <li>9. 具体的な調査方法</li> <li>10. データの分析、統計解析ソフトの利用</li> <li>11. データの記述</li> <li>12. 統計的検定</li> <li>13. 調査研究レポートのまとめ</li> <li>14. 調査研究レポートの発表と質疑応答</li> <li>15. 講評とアドバイス</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業時間内で作業を行うことは困難であるため、各自が設定したテーマについて継続的に、2時間程度の調査や分析のための時間が必要となります。 事前学習、事後学習という区別はなく、120分程度の準備、調査、まとめの時間を持つこと。						
授業方法	演習と講義 受講生は、各自が設定したテーマ、内容に関してショート・プレゼンテーションを行い、受講メンバー間での質疑応答、教員からのサジェスションを実施する。その結果を14講目(及び15講目)に発表する。						
評価基準と評価方法	各自の調査、研究課題の口頭での発表などの授業への参画度(20%)と本演習のまとめとして提出される調査研究レポート(80%)により評価する。各自の調査、研究課題について適宜、アドバイスをを行う。プレゼンテーション、調査研究レポートは15講目に個別に講評を行う。						
履修上の注意	4年次に「図書館実習」を受講する予定の者は、この「図書館総合演習」を履修することが望ましい。(必須ではないが、可能な限り履修を心がけること)地元の実習候補先の図書館調査などを行う。 調査研究レポートを作成し終えないと評価の対象とならないので、履修登録の時点から各自、調査研究のテーマを考えておくこと。(本演習は論文の作成が目的ではないので、オリジナリティのある成果を求めるものではありません。調査手法や引用文献記述法など論文・レポート作成のベースになるものを習得することが狙いです)						
教科書	使用しない。受講生各自のテーマに応じて、読むべき資料を指示したり、プリントを配布する。						
参考書	適宜、取り上げた事例、調査研究に合わせて指示する。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	読書と豊かな人間性						
担当教員	中西 美季					科目ナンバ-	Q22660
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	学校図書館サービス研究						
授業の概要	学校図書館におけるサービスの現状と課題を概説する。さらに、絵本や児童文学、知識の本等の実物に幅広く触れながら、その特性をとらえた上で、学校図書館にできるサービスを考える。また、公共図書館との協力等についても解説する。						
到達目標	子どもを知り、資料を知り、子どもと資料の橋渡しをするノウハウを会得できる。学校図書館現場に立っても困らないような知識と技術を学べる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション・デモンストレーション・学校図書館とは 第2回 学校図書館の歴史と現状・発達と学習における読書の役割 第3回 子どもと子どもの本を知る1 絵本1 読み聞かせ 第4回 子どもと子どもの本を知る2 絵本2 乳幼児サービス 第5回 子どもと子どもの本を知る3 昔話1 昔話の文法 第6回 子どもと子どもの本を知る4 昔話2 ストーリーテリング 第7回 子どもと子どもの本を知る5 児童文学 第8回 子どもと子どもの本を知る6 各種資料 第9回 選書理論、書評、紹介文 第10回 フックトーク、ブックリスト、ディスプレイ、行事 第11回 カウンターワーク、フロアワーク、デスクワーク、本への誘い 第12回 アウトリーチ、建築、施設、設備、読書活動推進運営 第13回 ヤングアダルトサービス 第14回 公共図書館の活動、調べ学習支援 第15回 図書館の自由、学校図書館をめぐる諸問題とこれから、総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の中で子どもの本及び参考文献リストを数種類配布する。子どもと本に関わる人にとっての基本図書ともなり、子どもを知る上でとても有効に利用できる。ネット情報で映像を見るのではなく、自分の手に取って、文字よりも絵を読み込んでほしいので、空いている時間に大学図書館や公共図書館にわけいって、可能なかぎりの本に触れておくこと。事前事後2時間程度が望ましい。						
授業方法	講義形式。ときによりディスカッションを行なう。						
評価基準と評価方法	授業態度：10% 小テスト：10% 授業内での提出物：80% 提出物にはていねいにコメントする。						
履修上の注意	10回以上の出席を要す。						
教科書	使用せず。印刷物を配布する。						
参考書	『読書と豊かな人間性』「シリーズ学校図書館」編集委員会編 全国学校図書館協議会 ISBN:4-7933-2245-7						